

## 2017年 一般社団法人日本離床研究会 認定試験

### <総評>

2017年の一般社団法人日本離床研究会の各認定試験が実施され、同12月までに全試験の結果が発表された。

離床プレアドバイザー筆記試験の出題傾向は、例年同様日本離床研究会公式テキスト（実践 早期離床完全マニュアル）の内容を中心に出题された。離床プレアドバイザー筆記試験の合格率は96%であり、例年より合格率が上昇していた。プレアドバイザー筆記試験の特徴は、臨床判断を問う応用問題は少なく、呼吸・循環・解剖・生理を中心とした、離床の実践やリスク管理に必要な基礎知識を問う問題が中心である。

離床アドバイザー筆記試験の出題傾向は、臨床で必要な離床の基礎・応用知識を中心に出题された。アドバイザー試験は合格すれば、当会指定の教育講座、実技講座の受講なしに離床アドバイザーを認定するものであるが、85%正答の合格基準を満たすものがおらず、合格者なしとなった。テキストのみの試験学習ではなく、実際の症例に対し、離床を実践する知識・技術を網羅することが必要と考えられた。

離床インストラクター筆記試験は昨年より僅かではあるが合格率が上昇した。要因としては試験対象者である離床アドバイザーの増加と教育機会（教育講座やインターネットセミナー、学術誌など）の増加が挙げられる。出題傾向に関しては、臨床で必要な離床の基礎・応用知識、離床に関連する最新知識まで幅広い分野にわたって出题された。例年同様に5肢択一問題より、5肢複択の問題が多い傾向にあり、解答を絞り出すことに時間を要し、試験の見直しが十分に行えず失点につながっていると考えられる。

筆記試験の合格率上昇の要因には、2017年からの試みとして、1. 個別に試験対策勉強会の開催、2. 1年で離床アドバイザー認定資格を取得できる「離床アドバイザー1年取得ゼミナール」の卒業生の受験、これらを相互した結果、合格率を引き上げていたことが考えられる。

11月には、インストラクター筆記試験合格者のみに受験資格が与えられる、インストラクター実技試験が実施された。実技試験は実際の症例情報から、離床前後のアセスメント、離床の実践、行ったアセスメントや技術に関する根拠や注意点のレクチャーなど、知識・技術・指導力の総合力が問われる試験である。今回5名が合格対象となった。

各受験者には合否通知と詳細な試験結果および採点チャートを後日郵送にて通知する。問題の分野別正答率や今後の学習に向けてコメントを記載されているので、是非参照し、臨床への応用、次のステップアップに活かしていただきたい。また、過去に出題された問題の一部を当会ホームページに公開する。出題の形式や傾向など参考にして欲しい。また、実技試験の実技要綱が掲載されたので参考にされたい。

今年より、離床インストラクター取得後の活動が明確にされ、医療従事者に対する全国規模の教育活動を志す「講師コース」と、患者・家族を含む一般市民の教育を志す「一般市民教育コース」である。当会ホームページに詳細が記載されているので、参考にして欲しい。

## 日本離床研究会認定試験 合格率

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
離床インストラクター実技試験	未実施	1名合格	3名合格	1名合格	5名合格
離床インストラクター筆記試験	20%	20%	42%	57%	38%
離床アドバイザー筆記試験	未実施	合格者なし	合格者なし	合格者なし	合格者なし
離床プレアドバイザー筆記試験	90%	80%	85%	82%	96%

※離床アドバイザーは筆記試験の他に理論コース・実技コース修了による取得も可

### <離床インストラクター筆記試験 対策>

離床インストラクターは離床に関する基礎知識はもちろん、研究データの臨床応用、離床の実践に関する知識など出題範囲が多岐に渡るため、離床アドバイザー取得者にとっても難易度の高い問題となる。よって、基礎知識の復習に加え、離床に関する最新のエビデンスや、各分野のガイドラインにおける関連項目をチェックすることが必要となる。また、症例ベースの臨床的設問が多く、時間配分が難しいのもインストラクター試験の特徴である。基礎問題を正確かつ短時間で回答し、症例問題にしっかり時間を掛けられることも対策として重要である。

### <離床インストラクター実技試験 対策>

実技試験はインストラクターへの最終関門となるため、総評の通り総合力が問われる試験となる。対策としては離床に関するアセスメント、体位変換や移乗動作など離床技術の実践が確実に実施出来ること。更に実践の手順とポイント（外してはいけない注意点）を知っていることが必要となる。更に疾患毎の離床の注意点と患者への声掛けやインストラクターとして医療者へ指導する能力も問われる。つまり、日常の臨床において、1例1例の離床やケア・アプローチに真摯に向き合うこと、そして同僚や後輩に声に出して指導することが一番の対策といえる。

### <離床アドバイザー筆記試験 対策>

離床アドバイザーは、当会理論コースと実技コースを修了したレベルと同等の知識レベルが要求される。つまり臨床であらゆる診療科の患者に対して離床を行うための知識、アセスメント、離床を実践するポイント、技術を全て知っていることが求められる。疾患に偏らず、検査データや薬剤に関する問題も一定の割合出題されるため、幅広い分野の学習をお勧めする。

## <離床プレアドバイザー筆記試験 対策>

離床プレアドバイザーは例年同様当会公式テキスト（実践！早期離床完全マニュアル）の内容を中心の出題となった。同テキストの内容を中心に基礎事項は確実に正答出来るように抑えることが一番のポイントとなる。その他離床の実践問題として、症例問題も一定の割合で出題されるので、過去の問題などを参考に、対策を立てて欲しい。

## <次回認定試験の予定>

- ・ 離床インストラクター実技試験

試験日：2018年11月24日（土） 会場：東京（予定）

- ・ 離床インストラクター筆記試験
- ・ 離床アドバイザー筆記試験
- ・ 離床プレアドバイザー筆記試験

試験日：2018年7月8日（日） 会場：札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、高松、福岡